

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 自主自立の精神を培い、違いを認め合う豊かな人間性と確かな学力を身につけ、社会における個人のあり方を考えられる生徒を育てる。
- 1 地域に根差し、家庭や大学等と連携して吹田東ならではの豊かな教育環境を築く。
  - 2 自ら学び、理論的に考える態度をはぐくむ、特色ある吹田東の「学び」を確立する。
  - 3 安全で安心の中で、一人ひとりの生徒が活躍できる吹田東をめざす。

## 2 中期的目標

## 新しい校舎への建て替えの機会を生かし、吹田東高校の組織的な教育活動の確立をめざす

- 1 学習指導要領等に基づき、授業形態の工夫やICT機器の効果的活用から、興味・関心もてる授業、知識・技能が身についたと感じる授業めざす。アクティブラーニング等の導入による生徒の授業への参加意欲の向上。
  - (1) 指導と評価の年間計画（シラバス）を、年度最初の授業で、生徒に説明する。
  - (2) 授業形態の工夫やICT機器を効果的に活用した授業実践を推進
  - (3) アクティブラーニング等により生徒の授業等への参加意欲を向上させる。  
※授業への参加意欲を向上させることにより、生徒向け学校教育自己診断における「全体として授業に満足している」の肯定的回答（平成 27 年度 58%）を、平成 30 年度には 70%にする。指導と評価の年間計画（シラバス）は役立っている肯定的回答（平成 27 年度 48%）を平成 30 年度には 60%にする。
- 2 確かな学力、高い志をもてる学習支援  
生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部施設も積極的に活用を検討する。
  - (1) 進学実績等で達成感を維持する。国公立関関同立産近甲龍 150 名。
  - (2) 教科として講習の実施について年間計画を策定する。土曜講習の中に青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー：大阪大学生が補助で入り込み）を設定する（1、2年）。  
※生徒向け学校教育自己診断における「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答（平成 27 年度 80%）を 85%にする。
  - (3) 漢字検定を 1 年、TOEIC BRIDGE を 1、2 年生、全国レベルの模擬試験を 2 年全員受検させる。  
※生徒が達成感を持って、漢字検定に取り組むよう、総合と国語科授業で連携しながら前年度より 3 級不合格者を減少させる。TOEIC BRIDGE の有効性活用を検証し、新しい大学選抜制度にかみ合う取組みを検討する。また、3 年次の進路指導において、模擬試験の結果を有効活用する。
  - (4) S 講座（外部講師が本校で講習をする実力養成講習）を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する
  - (5) 成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科実施する。1、2 年は土曜講習などの中に青葉丘セミナー（大阪大学との連携セミナー：大阪大学生が補助で入り込み）を設定する。  
※成績不振による原級留置者 0 名を目標とする。
  - (6) 図書室、自習室の利用促進を図る。
- 3 安全で安心な学校・生徒が自信をもって社会に巣立つ学校づくり、自尊感情の育成・自己肯定感の醸成
  - (1) 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を醸成する。  
遅刻指導、服装指導、ベル着指導（チャイムと同時に授業開始）を継続しておこなう。  
※年間遅刻数 1200 回（年間一人平均 1.2 回）以下を維持する。
  - (2) 社会で通用する人材を育成するため 3 年間の LHR 計画などを策定する。
  - (3) 教育相談を充実させ、課題を抱える生徒の個別の支援教育活動を充実させる。  
「担任の先生は気軽に相談できる。担任の先生以外に、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定的回答を平成 30 年度 60%（平成 27 年度 50%）をめざす。
  - (4) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。
    - ・特別活動を活性化。そのために、学校行事、学年行事、部活動を活用する。
    - ・生徒委員会活動等を活性化。 (図書委員、保健委員、HR 代表、庶務委員会、体育委員、風紀委員、合唱委員、文化委員)
 ※生徒向け学校教育自己診断における「クラスの活動に積極的に参加している」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答について毎年 7 割をめざす。（平成 27 年度 69%）
- 4 開かれた学校づくりと広報活動等の充実
  - (1) 開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校との連携を図る。
  - (2) 本校の特色を活発に広報等する。
    - ・ウェブページ、本校の学校紹介のパンフレット、プレゼンテーションソフト、DVD を適宜更新するとともに、中学校、塾の訪問を継続実施する。
 ※新入生アンケートの「吹田東高校のホームページを見たことがある」の回答（平成 27 年度 77%）を引き上げ、平成 30 年度には 80%以上にする。
- 5 人材育成への取組
  - (1) 設立 8 年目を迎える GUTS（若手塾）の取組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。
  - (2) 経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組みを。
- 6 個人情報等の適正な管理
  - (1) 個人情報等の適正な管理を行う。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「入学してよかった」について、生徒より保護者が高く、生徒も学年を進行するにしたがって上がっている。学校の方針には、全体として理解・満足を得られている。</li> <li>・授業について、「満足している」が約 60%と低い。授業アンケートの結果を参照すると、必修科目が低く選択科目が高くなっている。基礎科目や直接入試につながらない科目の必要性を伝えることが大切である。</li> <li>・進路指導では、きめ細かな指導ということで評価されている。</li> <li>・生徒指導では、厳しいとする意見もあるが、保護者の 70%以上が共感しており、理解されている。</li> <li>・体罰やセクハラについて許されないとする生徒が多く、健全な人権意識が身についている。</li> <li>・行事では、体育祭の雨天時の開催や文化祭についてより生徒が活躍できる条件を検討する必要がある。</li> <li>・生徒と教員の関係では、「気軽に相談できる」の項目で担任以外も上がっている。特に 1 年生から担任以外の部活顧問など様々な教員と話ができる環境を整えることがより改善につながる。</li> </ul>	<p>【第 1 回 6 月 21 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎では、新しくなった ICT 機器を生徒が活用できる場面を作る。</li> <li>・外部の人に対する挨拶は、外部の人に好印象を与えるだけでなく、不審者対策にもなる。</li> </ul> <p>【第 2 回 11 月 22 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニングの手法は、社会では土台となる学習法である。高校でも大学や中学校の事例を参考に従来の学習方法と組み合わせ、生徒の成長に活かす取組を行う。</li> <li>・海外語学研修の更なる積極的な取組みは、英語力の向上につながるようになる。</li> </ul> <p>【第 3 回 2 月 15 日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校教育自己診断」について、教員の外部の人に対する挨拶や自転車での交通マナーについて生徒の模範となるように取り組む。</li> <li>・吹田東高校の特色を、生徒・保護者に見える形にまとめると、より共有できる。</li> <li>・語学研修では、姉妹校提携など恒例イベントがあれば、定着する。</li> </ul>

## 府立吹田東高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
能 活 用 で 、 興 味 ・ 関 心 ・ 知 識 ・ 技 能 ア ン プ	授業形態の工夫・ICT効果的に活用した授業実践を推進し、興味・関心、知識・技能が身についたと感じる授業。(3) アクティブラーニング等により生徒の授業等への参加意欲を向上させる。	(1) 年度初めに、科目毎に作成したシラバスを、配付・説明する。地歴・公民科で政治的教養を育む教育、英語でCAN・DOリストを取り入れたシラバスの作成実施する。(2) 授業形態の工夫。ICT(電子黒板、プロジェクター、TV、ビデオ、書画カメラ、パソコン、タブレット等)を授業で活用する。(3) グループ学習等のアクティブラーニングや、ICTの効果的な活用で、授業等への参加意欲を向上させる。・授業改善委員会等を通じ、授業アンケート、授業観察シートを、授業改善に活用する。授業アンケート結果より、生徒・保護者へ改善方策等を示す。教科科目としてとして、具体的な取組計画、評価指標、自己評価を作成する。・ICTを活用した公開授業を、公開授業週間に全教科で実施する。	(1) 自己診断における、「シラバスは役立っている」の肯定的回答を、5%以上アップさせる。政治的教養や英語外国語表現・理解能力の向上を検討する。(2) 教員対象講習を実施する。授業アンケートで、教材活用の項目の値2.99を、向上させる。(3) 授業アンケートで、興味・関心、知識・技能の全体平均を、平成27年度より向上。2回目において、全体の平均値の向上。・授業観察シートの活用度向上。・教員相互の授業見学実施率90%(平成27年度88%)	(1) シラバスは役立っている。52%(27年度47.7%) (○) (2) 5月・7月・8月・9月 プロジェクター・電子黒板・書画カメラ等説明会。10月PCとプロジェクターの無線接続講習会。6月全普通教室にHDMIケーブルを配備。9月全普通教室のノートPCのブラウザ変更。1学年の全普通教室に音声ケーブル配備。12月無線ルーターの配備。新校舎へ向けたICT整備の課題の整理。(◎) 教材活用3.02 (◎) (3) 27年度(3.00)、29年1回目3.02回目2.98 (○)、教員相互の授業見学率(88.8%) (○)
確 かな 学 力 、 高 い 志 を も つ て の 学 習 支 援	生徒に応じた学習支援を行い、学習の成果を実感させ、やる気と達成感を持たせる。大学との連携、外部施設も積極的に活用を検討する。 (1) 進学実績等で達成感を維持する。 (2) 教科で講習の年間計画の策定実施 (3) 漢字検定(1年)、TOEIC BRIDGE(1・2年)、模試(2年)を全員受けさせる。 (4) S講座を実施し、部活動との両立を図りつつ実力を養成する (5) 成績不振者に対しても、平日や土曜に指名補習を教科実施する。 (6) 図書室、自習室の利用促進	(1) 進学実績等で達成目標を設定する。3年間の進路指導計画を設定する。自宅での学習習慣の確立や講習への参加促進のため保護者との連携を強化する。・進路指導部が卒業生の進路状況を分析し、教職員全員参加の情報交換会を行う。(2) 年間通して土曜日、平日放課後、早朝の講習と夏季講習を実施する。土曜講習の中に青葉丘セミナー(大阪大学との連携セミナー:大阪大学生が補助で入り込み)を設定する。 (3) 漢字検定、TOEICBRIDGEテストを実施することにより、資格取得と次への意欲喚起を行う。模試を全員受検し、進路意識を高める。 (4) 外部講師に対し、指導方針をたて効果がえられるようにする。講習参加者が最後まで継続できるようにする。 (5) 指名補習の欠席者に対しては、生徒を指導するとともに保護者にも連絡する。・合格に向けて週休日の家庭学習の定着を図るため、総合で基礎学力診断テストを実施し、成績不振者は宿題等個別指導をする。 (6) 図書室の蔵書を使って生徒が調べ・学ぶ授業を増やす。・生徒の心の糧となる読書をすすめる。自習室の利用促進を図る。	(1) 国公立関西私立大(関関同立産近甲龍) 現役合格者数130名・3年間の進路指導計画の効果的実施の実現。・学校生活実態調査の難度を上げ、有効活用を更に図る。・進路が「グズ」等の参加率の上昇・授業以外の学習時間1時間以上の生徒増加(平成27年度1年38%2年39%3年62%) (2) 「先生の講習は役に立った。」の肯定的回答(平成27年度80%)を85%に上げる。講習の実施回数の確保、申込者の出席率確保を図る。(3) 漢字検定3級の合格率90%をめざす。TOEICBRIDGEで、目標1年生平均115点(H27平均116.3)、2年生平均120点(平成27年平均118) (4) 欠席者に対して、出席喚起連絡する等支援を行う。出席率のアップ。(5) 成績不振による原級留置者0人。(6) 表現演習・総合の時間等授業で、図書室利用を図る。生徒図書委員による図書館便りの発行。来室生徒数、貸出冊数の増1000冊(H27年696冊)・自習室の利用1日平均12人以上。学習習慣定着のため、自習室も活用する。	(1) 国公立関西私立大学現役合格者数164名(◎) 学校生活実態調査結果1年入学次の学力の二極化が明確になる。校内分析会等実施。授業以外の学習時間1時間以上(平成28年度9月1年45%2年46%3年65%) 進路ガイダンス・保護者説明会実施 (○) (2) 「先生の講習は役に立った」(85%) (◎) (3) 漢字検定3級合格率78.5%(△) TOEICBRIDGE 1年生平均111.7(○) 2年生平均(117.3) (○) (4) 3回に1回程度、授業アンケートを実施。内容の微調整を行う。出席率70.3%(○) (5) 原級留置者(2名)(△) (6) 生徒図書委員による「ライブラリーニュース」4号まで発行。図書貸し出し冊数1166冊 (◎) 自習室利用率1日平均11人(○)
学 校 づ く り ・ 自 尊 感 情 の 育 成 ・ 自 己 肯 定 感 の 醸 成	安全安心な学校、生徒が自信を持って社会に巣立つ (1) 基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を醸成する。 (2) 社会で通用する人材を育成するためLHR計画や総合的な学習の時間の計画等を作成実施する。 (3) 教育相談を充実させ、課題を抱える生徒の個別の支援教育活動を充実させる。 (4) 一人ひとりの生徒が活躍できる場面をつくる。・生徒委員会活動等を活性化させる。	(1) 遅刻指導、服装指導、ベル着指導を継続しておこなう。・遅刻者に対しては、段階的な指導を行う。・服装指導の高い評価を継続する取組み推進。・清掃習慣の定着に向けた取組み推進。(2) LHR計画や総合的な学習の時間で、志(こころざし)学に取り組む。特に生命尊重の取組み、防災教育の取組み、人権尊重の教育、キャリア教育、健康教育を推進する。国際理解教育の一環として、海外の高校との交流と、語学研修の実現とその成果を共有化する。(3) 教育相談について生徒に周知し、相談しやすい雰囲気をつくる。・高校生活支援カードの有効利用。・定期的な教育相談委員会の開催により、支援の必要な生徒を早期に把握し、適切な支援を行う。また、必要に応じて外部機関や専門家との連携を図る。(4) 学習活動を中心にした上で、学校行事・部活動に取組ませることで段取り力を育成し、達成感を持たせる。生耐寒行事の実施。・クラブ代表者会議を通じて、生徒のリーダーを育てるとともに、部活動を活性化させる。・各生徒委員会を指導する分掌や係を明確化する。それにより、生徒委員会活動を活性化させる。(図書委員、保健委員、HR代表、庶務委員会、体育委員、風紀委員、合唱委員、文化委員)	(1) ア年間遅刻数(年間一人平均1.0回以下)を維持(平成27年度0.91)。授業中の服装指導、ベル着指導の実施。生徒が前向きな清掃活動を月1回実施。 (2) 1年次に生徒同士の集団づくりや俳句創作や発表の機会を設ける。・オーストラリアとの交流・語学研修実施。希望者15名以上(H27年6名) (3) 「担任に気軽に相談できる」(H27年60%) 「担任以外に相談室等で気軽に相談できる先生がいる」(H27年40%)の肯定率を上げる。 (4) 「クラスの活動に積極的にかかわっている」「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」の肯定的回答の上昇(平成27年度69%) ・新入生の部活動加入率90%(平成27年度85%)・生徒委員会活動の年間計画どおりの実施。	(1) ア 遅刻数:一人平均0.79回(◎) (2) 俳句創作は10月6日実施。川端康成文学館俳句コンクール入選25名中13名(◎)、オーストラリア語学研修6名参加(△) (3) H27年度のSCならびに相談室利用状況は、生徒32名、教員37名、保護者14名であった。(83名) 医療機関等と連携したのは2名 H28年で生徒208名、教員33名、保護者65名(合計306名)(◎) 医療機関等と連携している6名 「担任は気楽に相談できる」(58.2%) 「担任以外」(48.2%) (○) (4) 新入生加入率88.8%(○) 「クラスの活動に積極的にかかわっている」(64.3%) 「体育祭、文化祭などの生徒会活動に積極的に参加している」(68.2%) (○)
4 開 か れ た 学 校 づ く り と 広 報 活 動 等 の 充 実	(1) 開かれた学校づくりとして、学校行事等の公開。地域及び地元幼小中学校との連携を図る。 (2) 本校の特色を活発に広報等する。	(1) 体育祭、文化祭等学校行事の公開。・クリーンキャンペーン(地域清掃活動)などで、地域連携の活性化を図る。・幼稚園等での生徒実習をおこなう。・中学校との相互の公開授業を行い生徒の授業理解度を高める。・大阪大学等との連携を継続する。・地域教育協議会等に参加し、その行事への生徒の参加を促す。 (2) 広報渉外等を担当するGTOのメンバーとして、校務運営委員、副担、新任4年目及び有志教員で運営していく。分担すべき内容についても、見直しを行う。ウェブページに、情報を発信する。在校生保護者への広報活動も充実させる。・学校説明会等で使用する本校紹介プレゼンテーションソフトやDVDをさらに魅力あるようにバージョンアップする。・中学校訪問、塾訪問を継続実施し、情報収集と広報に努める。	(1) 体育祭、文化祭等行事の地域からの参加者数の増加。・幼稚園での生徒実習8回維持・地域教育協議会等への参加等を昨年と同程度確保。地域と保護者との合同企画も検討する。・クリーンキャンペーンの参加者320名以上(平成28年度409名)。地域と保護者の合同企画を引き続き実施する。・中学公開授業参加者数の維持(平成27年度14名)・「本校のホームページを見たことがある」(平成27年度77%)を引き上げる。(2) 全教員による中学校訪問の実施。(平成27年度ほぼ全員)組織的に役割を担えるように、改める。ウェブページの更新回数月2回以上行う。	(1) 文化祭 地域10名 中学生とその家族196名 幼稚園での実習は7回実施、加えて保育園で0～1歳児体験。放課後に実施。クリーンキャンペーン409名参加。(◎) 地域納涼大会PTA参加(○) 中学校公開授業参加者数(11人)(△) 「本校のホームページを見たことがある」(76.2%) (○) (2) 全教員で中学校訪問(○) ウェブページの更新は行事ごとの更新のほか、学校外の行事ではツイッターによる速報のほかオーストラリア語学研修や修学旅行ではブログを活用し随時更新。(◎)
取 組 の 人 材 育 成 へ	(1) GUTS(若手塾)の取組みで経験の少ない教員の育成に力を入れる。 (2) 経験豊かな教員の知識等を、後進教員へ生かす取組みをする。	(1) 校内での研修においては、参加体験型の研修を中心に、今後直面するテーマを取り上げて、OJTを進める。 (2) GUTS(若手塾)等で、研修講師を務める。公開授業の実施。	(1) GUTS年間8回以上(平成27年度9回) (2) 研修講師又は公開授業の実施などの機会を、年2回以上設定する。	(1) GUTS9回実施。(○) (外部講師3名、本校教員4名)(○) (2) 公開授業を8月と11月に方式を変えて実施。(○)
正 管 理 の 適 人 情	(1) 個人情報の適正管理を行う。	(1) 個人情報の適正管理を行う。	(1) 個人情報管理表を作成する。(2) 保存期間の見直しを行う。(3) 各部署の管理責任者を確認、引き継ぎを文書で実施する。	(1) 8月末で完成。事務室で一括管理(◎) (2) セキュリティポリシーの改訂、一部保存期間改正。(◎) (3) 各部署レイアウト図を作成。各部署の管理責任者文書で確認(◎)